



令和5年度 事業報告書

令和5年4月1日～令和6年3月31日

- 小規模多機能居宅介護事業所 ともがき
- サテライト型事業所 和光
- 住宅型有料老人ホーム ともがき



社会福祉法人ちいさがた福社会理念

信頼・連携・互助

令和5年度

小規模多機能型居宅介護事業所 ともがき/サテライト型 和光/住宅型有料老人ホーム ともがき

事業目標

住み慣れた地域で安心した生活が送れるよう寄り添います

新型コロナウイルスが5類に引き下がる中、感染対策を継続しながら少しずつではありますが、以前の様な生活が戻ってきています。外に出る機会が増え、ご利用者様の笑顔が多くなり、またご家族の方々も面会で会える事により、安心できる環境になってきていると感じられます。

その中で、小規模多機能型居宅介護の役割でもある『住み慣れた地域での生活が継続できるように』を事業目標とし、地域に根差し繋がりを強くし地域の方々と共にご利用者様にとって過ごしやすい環境を作っていきたいと思えます。

1、和光・ともがきの事業機能見直し

和光・ともがきの実際の状況において、ご利用者様に快適に過ごしていただく為、登録者の地域・人数により本体・サテライトの登録転換が望ましいと考えられます。

転換を行う事により、住み慣れた地域に通所ができ、広々とした場所で過ごしていただけるよう環境作りをしていきます。

また、職員が働きやすくなるよう職場環境を整える取り組みを行いました。不要な書式の廃止や転記書類の整理など記入に時間を費やしていた状況でしたが、見直しを行うことにより、ご利用者様に関わる時間を作ることに取り組んでいます。



上半期におきましては、7月より和光・ともがきの登録転換を行ない、住み慣れた地域からの通所や快適に過ごしていただく居場所作りを行ない、利用者様同士の交流も広がり会話が増えてきていると感じます。

また、ともがきは登録転換により訪問回数が増えた事から、7月から新たに訪問体制強化加算を取得する事が出来ました。和光においても看護職員を常勤配置する事により、7月から新たに看護職員配置加算を取得する事ができ、介護収入を上げる取り組みを行ないました。

書式見直しに対しては、継続し業務日誌や利用者様の記録を24時間記録に変更、モニタリング書式を変更する事により、変化に築く取り組みを行ないました。

2、有料老人ホームともがきのサービス整理

夫婦部屋の利用者が少なく、空床になってしまうことから、利用形態を見直し特別室を作る事により満床にする取り組みを行いました。

また小規模多機能型居宅介護との業務区分を行う為、有料老人ホーム利用者様が過ごせる空間を確保し、書式にて業務区分する取り組みを行いました。

上半期においては、有料老人ホームの入居者様が過ごしていただく場所作りを行ない、ゆっくり過ごせる空間を提供しました。

また、特別室に入居していただき空床問題を無くし満床にする事が出来ました。

3、スキルアップへの取り組み

専門職としての知識・技術向上の為、事業所会議にて研修を行う取り組みを行っています。法人研修に参加する機会を増やし、スキルアップできる環境を作っていきます。

また認知症介護基礎研修対象者を確認し、年内の受講に向け計画していきます。

上半期にて、認知症初任者研修を1名受講し知識・技術の向上に取り組みました。資格取得後も日々向上できる様にサポート体制に取り組んでいきます。

また、法人研修を全職員が均等に参加できるよう取り組み、知識向上を目指しました。

4、BCPの策定・ともがきの設備状況の確認・更新実施

感染症・非常災害に対する備えを対応マニュアル・手順書に基づき職員一人一人が実践しコロナ、インフルエンザ・ノロウイルス感染症に対応する術と、地震・豪雨土砂災害に対する事業継続計画を構築し、全職員共通認識を持って身に付けていきます。



対応マニュアル・計画を策定するだけでなく、日頃からの訓練や見直しをも計画立てて行なう事で緊急時に即応力をもって出来る体制を作っていきます。

また地域合同防災訓練を行っていききたいと思います。

上半期にて、事業所避難訓練を実施し結果から修正など見直す取り組みを行ないました。

秋に地域参加避難訓練を予定している為、活かしていきたいと考えています。

BCPの策定については、法人に基づき事業所内容を作成中です。

5、小規模多機能型居宅介護事業所の基本に立ち返る取り組み

地域密着型事業所として、地域の方との交流を大切にしていき事業所を理解していただく為、地域行事の参加や運営推進会議にて活動報告を行い、小規模多機能型居宅介護外部評価を元に事業所に反映させより良い事業所作りを行っていきます。

在宅支援を継続していく為、訪問を強化し住み慣れた場所で安心して生活ができるように一人一人のニーズに合わせ取り組んでいきます。

上半期においては、ケアの見直しを行ないニーズに合わせ個別ケアを開始する取り組みを行ないました。また、地域行事に参加し運営推進会議にて地域行事の情報収集や事業所報告を行なう事で、地域の状況などを知る機会が出来てきていると感じます。小規模多機能居宅介護外部評価の職員個別評価を開始し、今後取りまとめ行ない事業所評価を行なっていききたいと思います。

第三四半期では、外部評価の職員評価をまとめ、事業所としての来年度の活動計画を作成しています。今後、運営推進委員会でお示しし、ご意見をいただきながら総括票を作成し、取り組んでいきます。

年度末の運営推進会議にて報告させて頂き、6年度から取り組んでいききたいと思います。